



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯学教育者ワークショップ開催される

歯学教育学部門 片岡 竜太



第17回昭和大学歯学教育者のためのワークショップは、7月29日(日)、30日(月)に神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催されました。医学部、薬学部のアドバンスドと同時開催で、参加者は55名(歯学部20名)、タスクは18名(歯学部4名)でした。最初に参加者全員で、理事長講演「医系総合大学である昭和大学の将来像」を拝聴しました。建学の精神と本学の歴史、それを基盤として医系総合大学である昭和大学の特徴を取り入れた目標を決めて、全教員が一丸となって教育に取り組み輝かしい未来を築いて欲しいという理事長の強い気持ちを感じました。テーマは順に「医学部のコンピテンシー」と「内科卒後研修のあり方について」(M)、「電子ポートフォリオとe-learningの活用」「進級試験のあり方について」(D)「コンピテンシーに基づくらせん形カリキュラムの検討」「コンピテンシーの適正な評価方法の検討」(P)4学部混成グループは「昭和大学の教育研究の目的」と各学部が抱えている重要でかつ緊急なテーマに取り組み、発表と討議も参加者全員で行いました。学部を超えた活発な討議の後、東京慈恵会医科大学福島統教授のご講演「医学教育のグローバルスタンダード: Competence が求められている」を拝聴し、学事課も含め80名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。夕暮れの富士山をバックに参加者が3学部入り乱れて和気藹々と話している姿は昭和大学のますますの発展を予感させるものでした。その後夜更けまで懇親は深められました。本学のWSの一環として8月に行われた第2回富士吉田教育部と保健医療学部のWSでも、初年次教育終了時・保健医療学部・保健医療学研究科博士前期課程のコンピテンシーがテーマに取り上げられました。

歯学部ではコンピテンシーを2009年に取り入れ、学生は卒業までに「このような事ができるようになる」という事で今の学びを自分の将来像につなげることができ、また教員は自分の担当する教科の指導を通

じて、「卒業時にこのようなことができる学生を育てる」という意識を持つことができ、学生と教員間で同じ目標を共有できるようになってきていると思います。

歯学部ではすでに「プロフェッショナルリズム」「コミュニケーション能力」などのコンピテンシーを学生の個性や習熟度に合わせて習得するために、電子ポートフォリオを活用しています。技能に関してもその到達度を記録し、さらなる向上につなげるために、技工物などの画像や医療面接や臨床手技の動画も電子ポートフォリオに保存できるように改良しました。学年や教科を超えた連携へ活用するために早速9月からの歯科理工学実習に電子ポートフォリオを活用し、その内容を保存や補綴の学習にもつなげていくことが決まりました。また、知識の習得や臨床推論能力を涵養するために、e-learningや馬場先生が開発されているバーチャルペーシエント(VP)を活用し、その取組の様子を電子ポートフォリオから見られるようにすることも検討されました。

学生がコンピテンシーを身につけるためには、各学年の積み重ねが重要です。「進級試験のあり方」では、学生が効率よく学べるように進級試験の問題数や問題の内容などを討議していただきました。今年度から導入される「試験問題・成績統合管理システム」を活用して、個人成績をレーダーチャート化して、指導担任が指導をしやすくし、良問はプールしていくなどの方針が決められました。今後教育委員長と連携して、来年度の教育に活かす予定です。



今回のワークショップを通じて、最初にコンピテンシーを導入した歯学部では、コンピテンシーがすでに学部内でしっかり根付いていることを実感すると同時に、他学部にもわかりやすくその成果を示さなければならないと感じました。また各学部の抱えている問題を共有し、学部を超えてディスカッションを深めることによって、昭和大学として一丸となって建設的に問題を解決していることを実感できた2日間でした。

台北医科大学歯学部との交流プログラム継続の調印をしました

歯学部長 宮崎 隆



台湾の台北医科大学歯学部と本歯学部は、平成18年に学部間交流プログラムを締結して以来交流を続けています。このたび、プログラム締結から5年が経過し、先方の学長と学部長が交代したので、継続の調印をしたいという申し出がありました。去る7月18日(水)に歐 耿良学部長と蔡 恒惠教授を本学にお迎えして、当日の定例教授会終了後、1号館6階の会議室において教授会メンバー出席のもとで調印式を執り行いました。

台北医科大学は1960年に創立された私立大学で、現在では医学部、歯学部、薬学部、看護学部、公衆衛生栄養学部、医学技術学部などの7つの学部から成り立つ医系総合大学です。3つの大きな附属病院を所有し、病床数は合わせて3000を超えます。国際交流や研究も活発であり、脳外傷、再生医療、癌、生殖医療、生体材料などの研究を推進しています。

今回、歐学部長に旗の台校舎の研究施設と基礎系の研究活動を紹介しました。また、20日(金)には、蔡教授が学生を引率して歯科病院を訪れ、主に歯科衛生士の口腔衛生指導を中心に見学されました。

今後、学部学生の選択実習の受け入れや、大学院生の共同研究を積極的に進める予定です。また、医学部や薬学部とも交流を推進する計画を立てています。

医学歯学教育指導者のためのワーク

ショップに参加しました 歯学部長 宮崎 隆

平成13年に報告された「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」に基づき、我が国では大きな流れの中で、医学・歯学教育改革が進められています。文部科学省では平成14年から、医学教育振興財団、全国医学部長病院長会議、国公立大学歯学部長会議、日本私立歯科大学協会等の協力を得て、毎年7月下旬に、学長・学部長・教務委員長を対象に、医学・歯学教育指導者のためのワークショップを開催しています。第11回目にあたる平成24年度のワークショップが、7月25日(水)に東京慈恵医科大学で開催され、宮崎歯学部長と上條学生部長が参加しました。

毎年、大きなテーマに沿ってグループ討論と全体討論をしています。今年度は、本格的な超高齢社会が到来している中で、社会、人口構造の変化とそれに伴う疾病構造の変化に対応した教育をどのように進めるかについて、1)多様な患者の診療ニーズに対応できる総合的な診療能力の養成、2)今後の地域医療の在り方を見据えた教育カリキュラムの充実、3)チーム医療の実践も視野に入れた教育はどのようなものかについて検討を行いました。

東京大学の北村先生が「診療参加型臨床実習の定着に向けて」のタイトルで基調講演を行い、その中でご自身が入院患者役で登場するDVDを紹介しました。歯学系では東京医科歯科大学の俣木先生が、モデルコアカリキュラムの改訂に伴う臨床実習の事例集やログブックの試作を紹介し、さらに卒前臨床実習の評価システムの構築について言及されました。

毎年各大学の優れた取り組みの紹介がありますが、今年度は東京慈恵医科大学の福島先生が「多様な医療ニーズを学生に -低学年からの地域医療実習-」、及び新潟大学歯学部の井上先生が「診療ニーズを見据えた取り組み -超高齢社会と歯学-」を紹介しました。

各グループ討論のあと、全体の発表会がありました。今回のテーマであるチーム医療を目指した教育については本学が先頭を走っていますが、超高齢社会の進行という我が国が直面する問題点とともに、グローバルスタンダードを意識した教育の必要性が高まっており、教育改革継続の必要性を実感しました。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

9月 1日(土): 大学院秋季入学試験

9月 8日(土): 歯科病院臨床研修歯科医師
採用試験

9月 9日(日): 歯学部進学説明会

9月29日(土): 富士吉田父兄会

10月 2日(火): 大学院秋季入学式

10月 5日(金)~7日(日)

: 旗が岡祭・いぶき祭

10月 7日(日): 第5回昭和大学ホームカミングデー

10月16日(火): 解剖慰霊祭

10月20日(土): 父兄会秋季部会

10月23日(火): 歯科医師臨床研修マッチング発表

10月24日(水): D3ツベルクリン反応検査

10月30日(土): 昭和大学公開講座

認定医・専門医などの取得

広報委員長 井上 富雄

日本顎関節学会専門医・指導医 取得
佐藤裕二(高齢者歯科学)

昭和大学教育者のためのワークショップ に参加しました 歯科麻酔学部門 飯島 毅彦

7月31日より2泊3日、神奈川県葉山町にあるIPC生産性研究所にて昭和大学教育者のためのワークショップビギナーズコースに参加しました。医療系大学の卒業生は教育学の教育を受けていませんが、教職員に就任すると学生や研修医に教育を行っています。このワークショップはいくつかのグループに分かれて、予め決められた課題に対してカリキュラムを作っていくという作業を通して教育学の基本を学ぼうというものでした。

ステップごとに講義と作業を繰り返して優れたカリキュラム作りに取り組みました。各グループでは慣れないながらも真剣に作業に取り掛かっていました。作業中はタスクフォースの先生方が巡回し、議論に助言をしていただき、作り上げてきたものを改善しました。3日間という期間ではありましたが、あっという間に最終日を迎え、反省会の後、修了証を頂きました。スケジュールはタイトで、かなり消耗しましたが、夜はコンパで盛り上がり、体力の限界に挑戦した毎日でした。「教育」というものの認識を高めると同時に昭和大学内の交流も深めることができ、良い機会となりました。



歯学教育者のためのワークショップに 参加しました 歯科補綴学講座 馬場 一美

7月29-30日に神奈川県IPC生産性国際交流センターで行われた第18回歯学教育者のためのワークショップに参加してきました。今回は初めての試みとして、医学部、薬学部との3学部合同開催でした。冒頭に小口理事長より、昭和大学建学の精神、医系総合大学としてのこれまでの歩みとそれを基盤とした今後の展開、進むべき道についてのご講演がありました。受講者は総勢55名で7つのグループに分かれて昭和大学の教育改革について熱い討論が繰り広げられました。歯学部の出席者が参加した課題は昭和大学の教育研究のコンピテンシー(3学部合同)、進級テスト、E-Learning/電子ポートフォリオで、緊急性を要する重要な課題であり、発表されたプロダクトに対しては他学部からも数多くの貴重なご意見を頂きました。私が参加した E-Learning/電子ポートフォリオ・グループでは各講座での様々な運用実績に触

れることができ、非常に多くのことを学ぶことができました。また、常に建設的な意見が述べられ、歯学部教員のモチベーションの高さを実感しました。個人的には、このところ共用試験実施機構の会議と重なり出席できずにおりましたが、今年は参加できて本当に良かったと思います。



第17回歯学教育者のための ワークショップに参加しました

北海道医療大学歯学部
口腔生物学系生理学分野 石井久淑

このたびは、貴学のワークショップに参加させていただき誠にありがとうございます。今回は医学部、歯学部並びに薬学部合同で行われる新たな取り組みであることも含めまして、大変貴重な経験をさせていただき深く感謝しております。私が参加させていただいたグループのテーマは「進級試験のあり方について」でした。本学においても総合学力試験という形で同様の進級判定に関わる試験が各学年末に実施されていることから、多くの参考となる情報をいただきました。諸先生方の教育に対する並々ならぬ熱意を肌で感じることができました。さらに、3学部が集まった全体発表と討議では学部の垣根を越えた活発なディスカッション、そしてポリッシュされていく具体性及びクオリティの高いプロダクトに感銘を受けました。

近年の本学の歯学部を取り巻く厳しい現状は学生達の質的及び量的な変化をもたらしており、教育体制の見直しの必要性を日頃から感じています。教育改善においては優れたシステムの構築が無論重要ですが、その礎となるものは今回のワークショップを通じて感じる事ができた教育者の熱意、体力と矜持が必要不可欠であることを改めて認識することができました。本当にありがとうございました。



D6 チューターによる個別指導を行います

D6 チューター会議 佐藤 裕二

学生の生活面での指導は指導担任(主に教授・准教授)が1学年につき各自3-4名の学生を担当していますが、忙しい上、機械的な組み合わせであるため、勉強指導の学生のニーズに十分に答えているとは言えませんでした。一方、各講座から1-2名選出されたD6チューター(主に准教授から助教)は、補習を担当しますが、個別の学生指導は多くありません。

そこで、「成績向上が望まれるD6の個別指導を、相性の良いD6チューターが継続的に行う」こととなりました。22名の学生の希望に基づき、12名のD6チューターが担当し、7月から開始されました。

具体的には、以下のように行っています。

- ・出欠状況を把握したうえでの生活指導
- ・成績推移を把握したうえでの学習方法指導
- ・行き詰った時のアドバイス

きめ細やかな指導が効を奏することと思います。

スチューデント・リサーチ・クリニシャン・プログラムで発表しました

歯学部4年 中谷 貴恵

歯学部3年生の春休みには、研究入門という形で、基礎講座教員の指導の下で研究を行うことができます。私はこの機会に微生物学講座で歯周病原細菌の産生する酵素について研究を行いました。その内容を、日本歯科医師会主催の歯学部学生の研究発表会である、スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムで英語で8月17日に発表させていただきました。



研究入門では普段行う実習とは違い少人数で実験を行い、分からないことがあれば先生がすぐに教えてくださいました。内容も分かりやすく、ほとんど自分達で実験を行うことができ、とても充実した春休みを過ごせたと思います。

本プログラムで発表をすることが決まりましたので、4年生になってからも微生物学講座に通って、発表の準備を行ってきました。研究はとても楽しかったのですが、部活や学校の勉強との兼ね合いが難しいと感じる時期もありました。しかし、忙しい中で時間をどのように使っていくのかということ学ぶことができました。と思います。

当日は独特の雰囲気の中で、審査員の方々の前で発表を行いました。とても緊張しましたが、今までやってきたことをすべて出し切れたと思います。今回このような場で発表できたということは自分にとって良い経験になりましたし、自分の進路に新たな選択肢が増えたように思います。また、同じ志を持った歯学部生の人達の話聞くことにより今後のモチベーションも上がりました。研究から始まり発表まで色々大変でしたが得たものは多かったように思います。今回得たことを今後に生かしていきたいと思います。

今回の実習・発表で大変お世話になりました深町はるか先生をはじめ口腔微生物学講座の先生方に心よりお礼申し上げます。

受賞

広報委員 井上 富雄

- ・日本歯科医学教育学会 第10回優秀論文賞
北川 昇
(高齢者歯科学)
- ・日本歯科医学教育学会「教育システム開発賞」
菅沼岳史
(歯科補綴学)



- ・第30回日本骨代謝学会学術集会 優秀演題賞
- ・ANZBMS(オーストラリア・ニュージーランド骨代謝学会)Travel Grant
相澤 怜(歯周病学)



- ・第30回日本骨代謝学会学術集会 優秀ポスター演題賞
- ・ANZBMS(オーストラリア・ニュージーランド骨代謝学会)Travel Grant
安原理佳(口腔病理学)



編集後記

歯科放射線医学部門 松田幸子

8月号をお届けします。今回も力瘤のはいった原稿が集まりました。先生方も頭にいっぱい汗をかいてこれからの時代のニーズに適応できる学生さんをどのように指導していけばいいのか、多岐にわたって検討している姿が原稿から浮かんできます。教育もそうですが、研究の面でも先生方や学生さんが頑張っており、こういった活動が評価されている姿をお届けできてよかったです。毎日が締切や時間との闘いですが、お忙しい中、御執筆頂く方々には毎回大変感謝しています。また、紙面には見えませんが、校正の確認や修正、アップロードなど、陰でサポートをしてくださる沢山の方々にも感謝しております。